

小児看護学概論

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・濱中喜代

科目担当者（職位・氏名）：助教・遠藤麻子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：74

■ 授業概要

小児と家族について、社会状況、小児関連統計、子どもの権利に関する条約等から理解する。また、小児の成長発達の特徴、発達段階ごとの生活と援助の概要について修得するとともに、小児看護の対象特性、実践の場、目標とアプローチの基本と課題について教授する。

■ 到達目標

1. 小児と家族を取り巻く状況および小児保健統計からみた健康問題について説明できる。
2. 小児の生活を支える成長・発達（原理原則、形態的な成長、機能的な発達、影響要因、評価）について説明できる。
3. 健康な小児の各発達段階（新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期）の生活と健康問題への援助の仕方について説明できる。
4. 小児の最善の利益にかなう看護を実践するために小児の立場と権利について理解したうえで小児看護の対象特性、実践の場、目標と課題について理解し、ケア・スピリットについて考える。

■ 教育内容

小児看護学

■ キーワード

小児、家族、子どもの権利、成長・発達、各発達段階、小児看護学の目標

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	小児看護学の対象特性、実践の場、目標 小児と家族と健康問題	①小児看護学の対象特性、実践の場、目標 ②小児と家族を取り巻く状況と倫理的課題 ③小児保健統計からみた健康問題 (講義・GW) 配布資料)	濱中
2	小児の生活を支える成長・発達	①成長・発達の原理原則 ②形態的な成長、機能的な発達 ③影響要因、発達の評価 (講義・GW)	濱中
3	生活と健康問題への援助：新生児、乳児	新生児、乳児の生活と健康問題への援助 食事、睡眠、排泄、清潔、衣服の着脱、遊び (講義・GW)	濱中
4	乳幼児の世話；教室内実習①	抱っこの仕方、おむつ交換、排泄の援助等の実習（教室内実習）	濱中 遠藤
5	生活と健康問題への援助：新生児、乳児	幼児の生活と健康問題への援助 食事、睡眠、排泄、清潔、衣服の着脱、遊び 日常生活習慣獲得のための援助 (講義・GW)	濱中
6	生活と健康問題への援助：学童・思春期の子ども	学童・思春期の子どもの生活と健康問題への援助 食事、睡眠、学習 不登校、いじめ、喫煙・飲酒 自殺、性行動の逸脱 (講義・GW)	濱中

7	小児の最善の利益にかなう看護を実践するために	<p>小児の立場と権利&小児を守る法律と制度</p> <p>小児の最善の利益にかなう看護を実践するための看護師の役割、倫理的観点 (講義・GW)</p>	濱中
8	小児看護学の対象特性、実践の場、目標・アプローチの基本と課題	<p>小児の最善の利益にかなう看護を実践するための小児の理解とケア・スピリット (講義・GW)</p>	濱中

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

期末試験（80%）、課題レポートの内容（10%）、教室内実習の事前事後の学習状況（10%）

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・試験のフィードバックは希望者に対して行う。試験終了後2週間以内に事前にアポイントを取ったうえで、科目責任者の研究室を訪ねること。
- ・提出された課題にはコメントを付して、返却する。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
33巻 小児看護学 ① 小児の発達と看護
34巻 小児看護学 ② 小児看護技術

■ 参考書・参考資料等

- ・小林京子・高橋孝雄編集（2022）『新体系看護学全書 小児看護学①小児看護学概論/小児保健』メヂカルフレンド社
- ・小林京子・高橋孝雄編集（2022）『新体系看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護』メヂカルフレンド社

その他は講義中に提示する。視聴覚教材等は初回に示す。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業前後の学習は授業にて指示する。
- ・1年次前期の「生涯発達論」の復習および事前の調べ学習を行うこと。
- ・授業1コマにつき、事前・事後学修それぞれ90分程度（計180分程度）必要とする。
- ・事前学習として、指定された範囲の教科書を通読すること。
- ・事後学習として、授業時配布資料と教科書を読み、内容が理解できているかどうかを確認すること。
- ・演習においては、配布資料をもとに事前事後の課題に取り組むこと。

■ 担当教員からのメッセージ

小児看護の対象である小児と家族を捉えるための基礎的な学びの機会です。小児に対するアンテナを高くして、実際に周囲の子どもや視聴覚教材から具体的に子どもをイメージして学修を進めていきましょう。毎回順繰りに小児に関するトピックスを10～15分間でスピーチしてもらいますので、小児や家族を取り巻く社会状況にも目を向けるよう心がけましょう。概論はこの後の学習のベースになるものなので、積極的に主体的に学んでいきましょう。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

学長室、hamanaka★iwate-uhms.ac.jp、科目責任者は月水金の放課後16時半から18時まで。(事前に連絡があれば応じます。)

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の实務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

病院での看護師業務の経験を生かし、小児看護学に関する専門的で実践的な講義を行っている。